

議事（2）「都市基盤整備」について

（3）水道

【現状と課題】

- 水道は、市民生活や経済活動を支える重要なライフラインであり、本市では、安全で安心な水道水を安定的に供給するため、水質の保全や災害に強い施設の整備などを行ってきた。
- また、水道事業の理解促進などのため、「おびひろ極上水」による PR、イベントや学習機会の提供を行っている。
- 水道事業の開始から 60 年以上が経過し、浄水場や管路などの老朽化が進行している中で、人口減少等により収入減が見込まれることや、高度な技術や知識を持ったベテラン職員の退職による人材不足なども踏まえ、施設等の計画的な改修・更新や、民間委託の活用等も含めた効率的な維持管理、人材育成・技術の継承などが必要となっている。

【第六期帯広市総合計画における主な取り組み】

- 配水管の整備
- 浄水場施設などの強靱化
- 災害対策備蓄資器材の充実
- イベントなどによる PR や学習機会の提供による水道事業の理解促進
- 簡易水道の維持管理

【今後の取り組みの方向性】

- 水道施設等の計画的な整備や、民間委託の活用等も含めた効率的な維持管理、人材育成・技術の継承などにより、水道事業の健全な経営に努め、安全で安定的な水道水の供給をはかる。

<論点例>

- 持続可能な地域づくりをすすめるために、水道施設等の改修、更新や効率的な維持管理をどのようにすすめるべきか。

議事（２）「都市基盤整備」について

（４）下水道

【現状と課題】

- 下水道は、快適な市民生活を支える重要なインフラ基盤であり、本市では、計画的に下水道の普及促進をすすめてきており、汚水整備率は 99.0%、雨水整備率は 69.7%となっているほか、農村地域における個別排水処理施設の整備率も目標値を上回るなど順調に推移している。
- また、下水道管渠の長寿命化や、道路陥没の未然防止のための下水道空洞調査、帯広川下水終末処理場の耐震化および改修、台風や集中豪雨等の災害に備えた資器材の充実などをすすめている。
- 下水道事業の開始から 50 年以上が経過し、処理場や管渠などの老朽化が進行していることや、豪雨災害に対する浸水対策が急務となっている中で、人口減少等により収入減が見込まれることや、高度な技術や知識を持ったベテラン職員の退職による人材不足なども踏まえ、施設等の計画的な改修・更新や、民間委託の活用等も含めた効率的な維持管理、人材育成・技術の継承などが必要となっている。

【第六期帯広市総合計画における主な取り組み】

- 汚水管、雨水管の整備
- 下水道空洞調査の実施
- 管渠長寿命化更新事業の実施
- 下水道マンホール等安全対策の実施
- 帯広川終末処理場の改修、更新
- 災害対策備蓄資器材の整備
- イベントや学習機会の提供による下水道事業の理解促進
- 個別排水処理施設、農業集落排水施設の維持管理

【今後の取り組みの方向性】

- 下水道施設の計画的な整備や民間委託の活用等も含めた効率的な維持管理や人材育成・技術の継承により、下水道事業の健全な経営に努め、安心して快適に暮らせる環境づくりをすすめる。

<論点例>

- 持続可能な地域づくりをすすめるために、下水道施設等の改修、更新や効率的な維持管理をどのようにすすめるべきか。

平成29年度 施策評価表

総合計画体系	まちづくりの目標	4 自然と共生するまち	評価担当部	上下水道部
	政策	4-2 うるおいのあるまちづくり	関係部	農政部
	施策	4-2-2 水道水の安定供給		
	施策の目標	水道施設の維持・整備をすすめ、安全でおいしい水の安定供給をはかります。		

1. 成果指標による判定

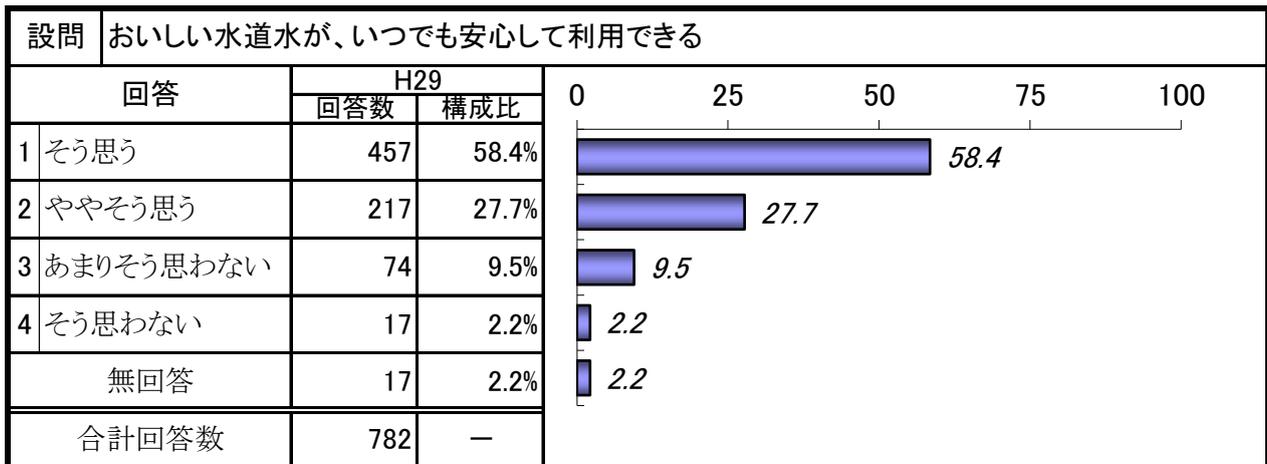
成果指標	単位	H28(実績)	H28(目標)	判定	実績値の年次推移
1 水道管路の近代化率	%	89.1	87.2	a	
		89.9			
成果指標による判定				a	

2. 成果指標の実績値に対する考え方

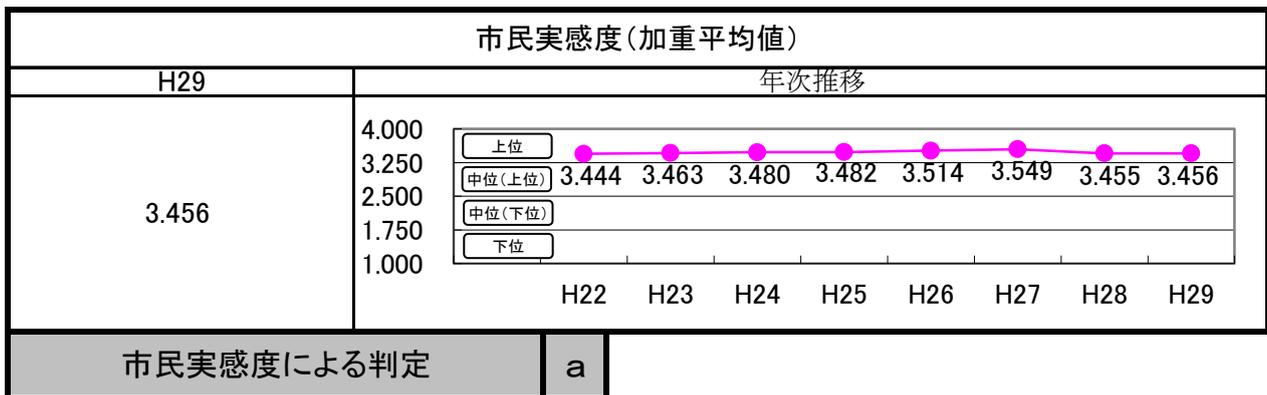
「水道管路の近代化率」は、前年に比べ0.8ポイント増加し、目標値を上回っています。配水管整備事業において、計画的に老朽化した配水管をダクタイル鋳鉄管へ更新していることが要因です。

「水道有収率」は、前年に比べ1.3ポイント減少し、目標値を下回っています。今年初めの厳しい冷えこみなどにより、配水管や宅地内の給水管で漏水が増加したことが要因です。これらの漏水箇所については、既に調査のうえ修繕を実施し、現在は通常どおりに回復していることから、今後は水道有収率も改善するものと考えられます。

3. 市民実感度による判定



上記の回答で3(あまりそう思わない)または4(そう思わない)を選んだ理由		H29	
		回答数	構成比
a	水道水がおいしいと感じないから	48	55.2%
b	断水や濁水などが発生したことがあるから	5	5.7%
c	災害時の不安があるから	19	21.8%
d	その他	15	17.2%
有効回答数		87	—



4. 市民実感度調査結果に対する考え方

市民実感度は、「そう思う」と「ややそう思う」の合計回答数の割合が86.1%となっており、上位にあります。

一方で、「あまりそう思わない」と「そう思わない」と回答した理由として、「災害時の不安があるから」との回答が前年と比べ5.3ポイント増加しています。昨年の道内での台風による断水被害などにより、市民の災害や安心安全への意識が高まっていることがうかがえます。

平成29年度 施策評価表

総合計画体系	まちづくりの目標	4 自然と共生するまち	評価担当部	上下水道部
	政策	4-2 うるおいのあるまちづくり	関係部	農政部
	施策	4-2-3 下水道の整備		
	施策の目標	下水道施設の維持・整備をはかり、快適な生活環境づくりをすすめます。		

1. 成果指標による判定

成果指標	単位	H28(実績)	判定	実績値の年次推移
		H28(目標)		
1 汚水整備率	%	99.0	a	
		98.5		
2 雨水整備率	%	69.7	a	
		69.6		
3 個別排水処理施設整備率	%	105.4	a	
		94.0		
成果指標による判定			a	

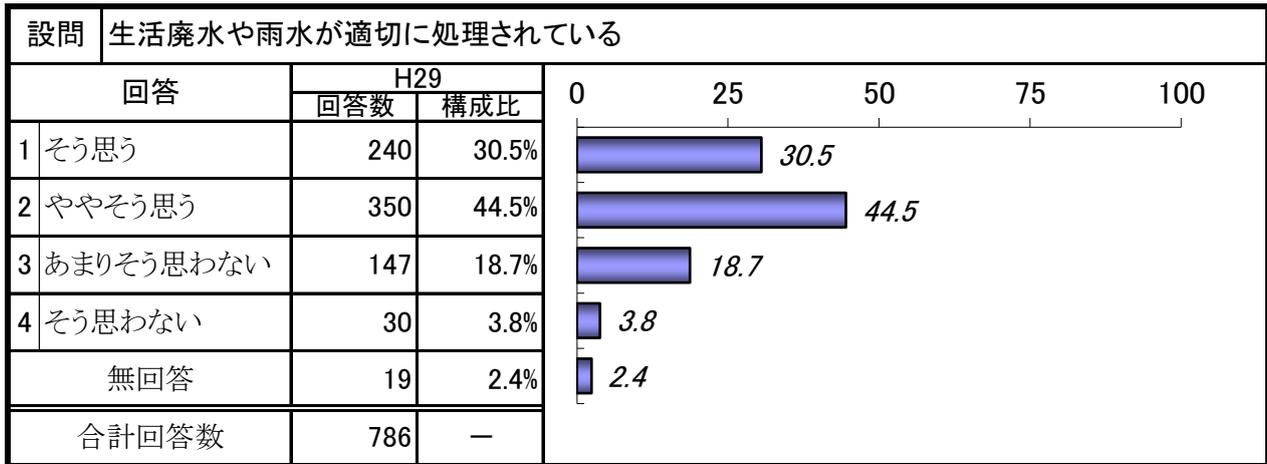
2. 成果指標の実績値に対する考え方

「汚水整備率」は、前年と同じ99.0%となり、目標値を上回っています。整備率に変動はないものの、計画的に汚水整備をすすめており、整備済面積は前年よりわずかに増加しています。

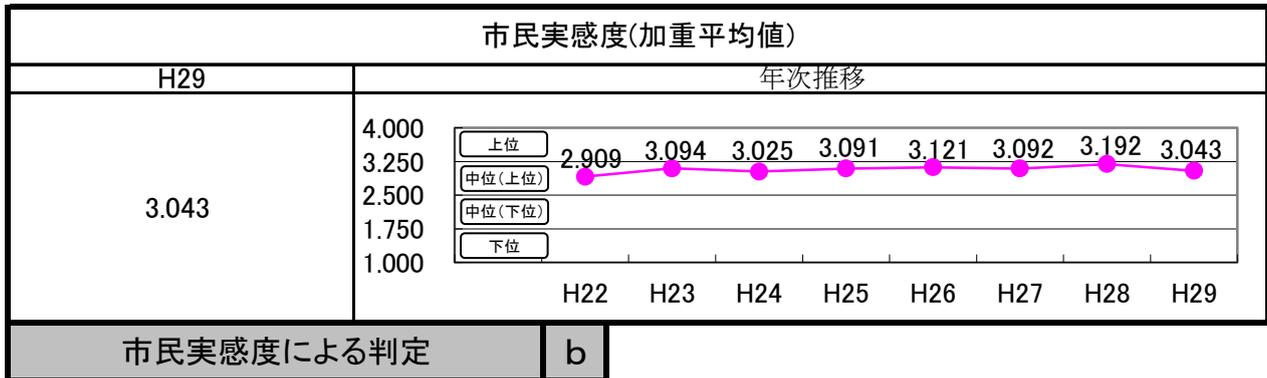
「雨水整備率」は、前年に比べ0.2ポイント増加し、目標値を上回っています。浸水対策として雨水管の整備などを計画的にすすめていることが要因と考えます。

「個別排水処理施設整備率」は、前年に比べ4.2ポイント増加し、目標値を上回っています。

3. 市民実感度による判定



上記の回答で3(あまりそう思わない)または4(そう思わない)を選んだ理由		H29	
		回答数	構成比
a	下水道が普及していないところがあるから	8	4.8%
b	降雨時に浸水するところがあるから	75	45.2%
c	災害時の不安があるから	66	39.8%
d	その他	17	10.2%
有効回答数		166	—



4. 市民実感度調査結果に対する考え方

市民実感度は、「そう思う」と「ややそう思う」の合計回答数の割合が75.0%となっており、中位(上位)にあります。これまで、市民ニーズに適切に対応しながら下水道整備をすすめてきたことが要因と考えます。

一方で、「そう思わない」と「あまりそう思わない」を選んだ理由として、「災害時の不安があるから」の割合が、前年に比べ10.1ポイントと大きく増加しています。計画的に雨水整備をすすめていますが、近年の局地的豪雨や昨年の台風による道路冠水などの浸水被害等により、市民の防災意識が高まっていることがうかがえます。

上下水道部の取組みについて

水道事業の主な取組み

(1) 水道管路の整備

- ・道路整備などにより、水道の維持管理上支障となるものや、新たに水道管が必要となる箇所の水道管の移設や新設
- ・老朽化した耐震性の低い水道管を耐久性や耐震性に優れた水道管へ更新

【平成28年度実績値】 ・耐震性等に優れた水道管の更新: 89.1% (目標値: 87.2%)

(2) 水道施設の改修や更新

【稲田浄水場】

- ・水道の基幹施設である稲田浄水場の耐震化工事を実施
- ・このほか、老朽化対策として電気や機械設備の更新などを実施中

【南町配水場】

- ・建設から40年を経過した南町配水場の改築工事(老朽化対策と耐震化)を実施

(3) 災害対策

① 緊急貯水槽の整備

- ・災害時における応急給水拠点として、市内12箇所に「緊急貯水槽」を設置しており、災害発生初期に飲料水として必要な概ね13万人に3日分の飲料水を確保



② 災害対策備蓄資器材の充実

- ・災害時に指定避難所等で、効率的かつ迅速な応急給水活動を行うために、平成28年度までに応急給水コンテナを10基配備
- ・断水時などに、医療機関などへの運搬給水を行うために、給水車を2台配備
- ・高齢者や子供でも、給水所から水の持ち運びが容易となるリュックの給水袋を平成28年度までに20,000袋備蓄

その他の取組み

(1) イベントによる上下水道事業のPRや学習機会の提供

- ・「帯広の水を見る週間」や「ホコテン」といった市民参加のイベント等を通してPRを実施
- ・市から学校等に出向く「出前講座」や、上下水道の施設見学の受け入れによる学習機会の充実

【出前講座】 平成28年度 19校 1,017名

(2) 「おびひろ極上水」によるPR

- ・市民に水道水の安全性やおいしさについて再認識してもらうとともに、観光客等にも広く帯広の水をPRするために製造し、広報活動の一環として事業を実施

【直近の販売実績】 平成28年度 59,205本



下水道事業の主な取組み

(1) 管路の整備と老朽化対策

① 汚水管の整備

- ・下水未整備地区の解消をはかり、快適な生活環境づくりを進めるために、汚水管を整備

【平成28年度実績値】 ・汚水整備率: 99.0% (目標値: 98.5%)

② 雨水管の整備

- ・浸水地域の解消をはかり、安全で快適な生活環境づくりを進めるために、平成28年度に実施した「浸水シミュレーション」を参考に、概ね20cm以上の浸水深が想定され、雨水管整備が遅れている箇所を優先的に整備

【平成28年度実績値】 ・雨水整備率: 69.7% (目標値: 69.6%)

③ 老朽化対策(管渠長寿命化更新事業)

- ・長寿命化計画に基づき、下水道管の長寿命化を進め、下水道機能を適切に維持

④ 下水道空洞調査の実施

- ・下水道管の老朽化による道路陥没を未然に防止するため、主に市内中心部、大空地区、工業団地を対象に地中レーダーによる土中の空洞調査を実施



⑤ 下水道マンホール等にかかわる安全対策の実施

- ・近年増加するゲリラ豪雨等によるマンホール蓋の浮き上がりや公共汚水樹の破損等による事故を未然に防止するための対策を実施
- ・鍵付きマンホール蓋や雨水が侵入しにくい、高さの調整が可能な構造の公共汚水樹への取替え

(2) 帯広川下水終末処理場の改修や更新

- ・長寿命化計画に基づき、中央監視制御設備更新工事、汚水ポンプ設備工事などを実施
⇒ 今後は、流域下水道への統合を見据えた具体的な施設規模の計画を策定し、改築・更新を実施

(3) 災害対策

① 浸水被害があった地域を優先した浸水対策

- ・平成28年の台風時の浸水被害地域(東12~14条南2~4丁目付近)を優先的に実施
- ・雨水管整備と地下水侵入対策(公共汚水樹および鍵付きマンホール蓋の取替え)を実施予定

② 災害用備蓄資器材の充実

- ・台風等の大雨時に使用する雨水汲み上げ用の排水ポンプを平成30年度に配備予定

